

## 2003年度国内PC (IA) サーバ出荷調査報告

ノークリサーチ (本社〒124-0001 東京都葛飾区小菅 4-12-5 : 代表伊嶋謙二 03-5629-2163、URL : <http://www.norkresearch.co.jp>) では2003年度の国内PC (IA) サーバの出荷状況を調査した。2004年度の予測も併せて調査、報告している。

### <2003年度 PC (IA) サーバ市場のポイント>

**2003年度 PC (IA) サーバ市場は再び増勢で、過去最高の出荷実績**

- 台数では対前年比 18.7%アップで、368,100 台の市場へ

- 金額市場は横ばいの 0.3%ダウン。サーバの低価格化はさらに加速

**景気の底打ち感から投資意欲増加。自治体需要に加え、民需の活性化が市場の追い風**

**メーカシェアは NEC 24.4%で 1 位、デルが好調を持続し 18.8%で 2 位へ**

**インターネット関連とエントリサーバ需要の IT インフラの投資意欲が高い**

**ラック (薄型) サーバは好調で全体の 45.5%を占めてタワー型とほぼ並ぶ。ブレードは 3%**

**2004年度は 15%増の 424,000 台と見込まれる**

**対象期間 :** (2003年度実績) 2003年4月から2004年3月

(2004年度予測) 2004年4月から2005年3月

**対象メーカ :** 電子情報技術産業協会 (JEITA) 自主統計参加及び未参加メーカ

日本電気、富士通、デル、日本 IBM、日本 HP、日立製作所、東芝、三菱電機など

**対象機種 :** 電子情報技術産業協会 (JEITA) 定義に準ずる

**調査方法 :** 当該メーカに対する直接取材及び弊社データベースによる分析

**調査期間 :** 2004年4月~5月

### [2003年度出荷状況]

**- 対前年比 18.7%アップで、市場規模過去最高の 368,100 台へ -**

2003年度は対前年比 18.7%アップで、過去最高の 368,100 台市場となった。2002年度までの景気停滞の影響で買い控えが目立った市況が、2003年度に入り投資意欲が上昇したことが要因だ。全体的な景気回復傾向を反映した心理的な投資の緩みが見られる。特に中堅から大手企業を中心に情報系サーバの増設利用が目立った。

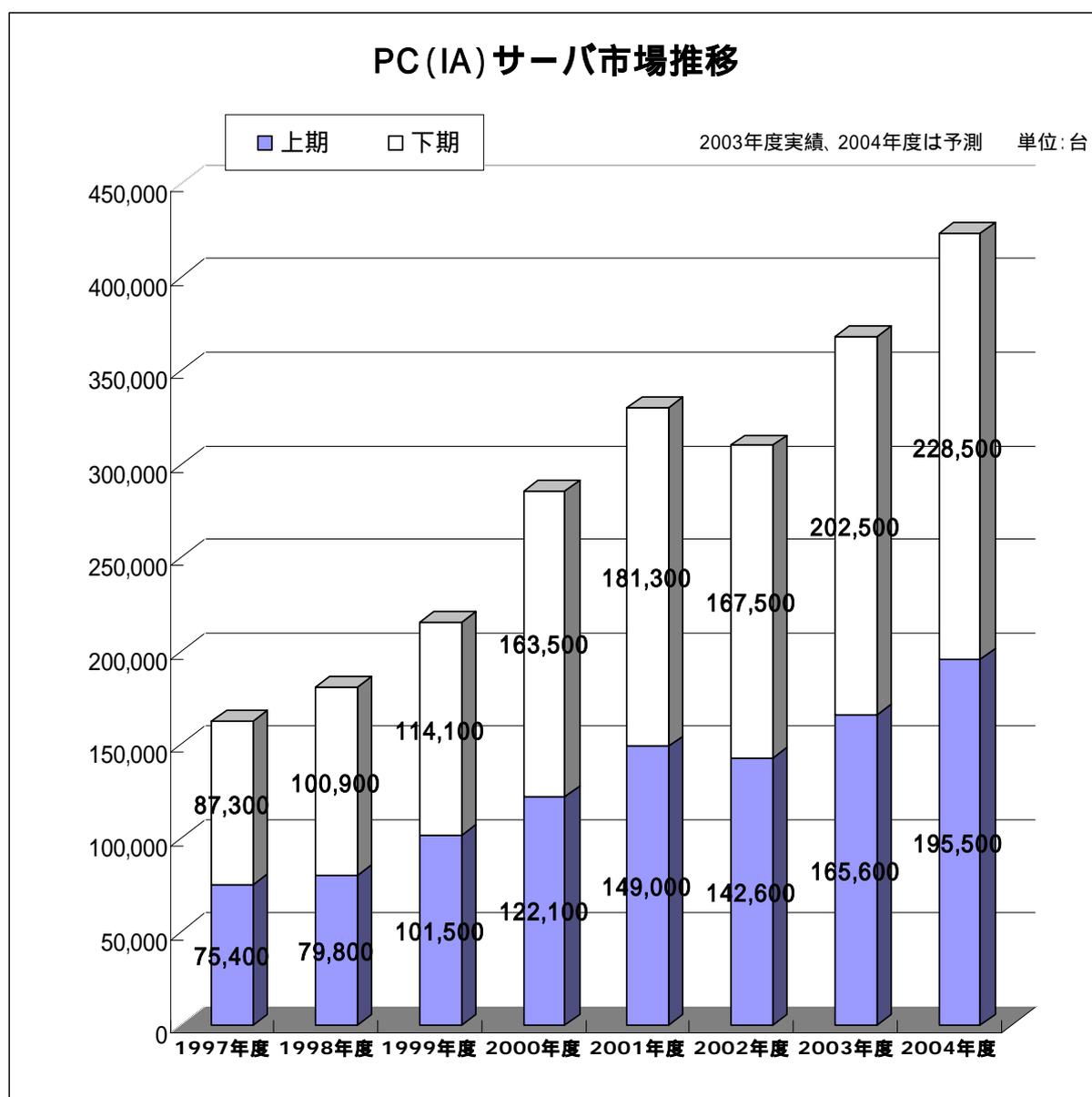
また IT 投資減税、WindowsNT から Windows server2003 へのリプレース、Y2K 導入企業のサーバ見直し需要なども好調を支えている。

業種別ではまだら模様ながら、上期は製造業では自動車産業、金融では地銀、証券、病院の電子カルテ需要などが好調な分野として目立った。また地方自治体での E ジャパン関連の需要も好調だった。下期になって民需と官庁、自治体が堅調な伸びを見せた。

金額市場は、低価格サーバの需要が高いことと、ベンダ間の低価格化戦略が功を奏し、平均単価の下落傾向が進んでいるが、ラック型サーバなどの増加により金額市場も下げ止まり、0.3%ダウンの 2,663 億円となっている。

PC (IA)サーバ総出荷台数推移/予測 (97年度から2004年度)

	上期	前年同期比	下期	前年同期比	合計	前年比
1997年度	75,400	151.4%	87,300	124.0%	162,700	135.4%
1998年度	79,800	105.8%	100,900	115.6%	180,700	111.1%
1999年度	101,500	127.2%	114,100	113.1%	215,600	119.3%
2000年度	122,100	120.3%	163,500	143.3%	285,600	132.5%
2001年度	149,000	122.0%	181,300	110.9%	330,300	115.7%
2002年度	142,600	95.7%	167,500	92.4%	310,100	93.9%
2003年度	165,600	116.1%	202,500	120.9%	368,100	118.7%
2004年度	195,500	118.1%	228,500	112.8%	424,000	115.2%



**[2003年度メーカーシェア]**

**- 総合力の NEC がトップ。2 番手には勢いのデルが躍進**

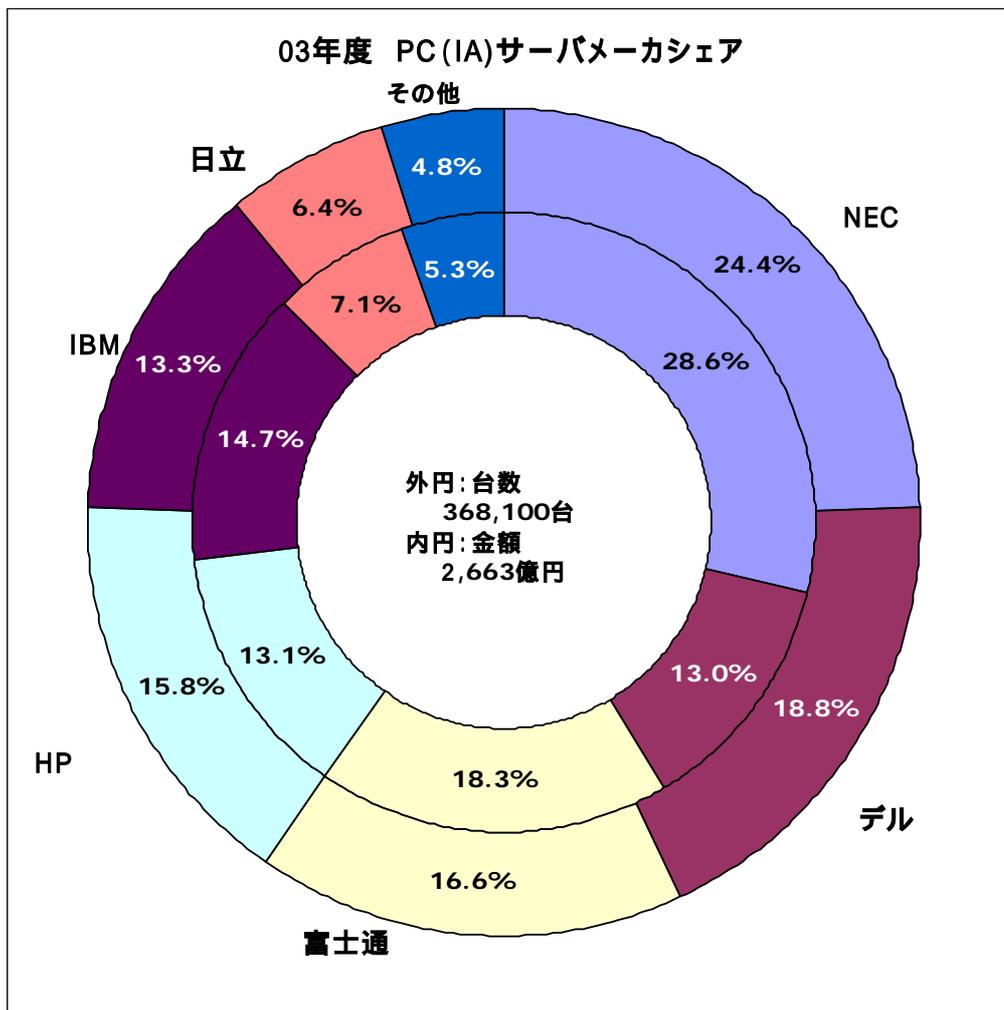
メーカーシェアでは NEC が 24.4%のシェアで依然トップ。NEC の強みは地域販売店のチャネル販売と安定した直販力と幅広い製品対応、多くの既存ユーザの実績による安定感だ。以前のような目立った大口需要はなかったが、全国のチャネルでの中堅・中小企業向けのエントリ系サーバの展開と基幹系システムの攻略という地味だが確かな展開で、着実にシェアを維持向上している。

デルは大掛かりな広告展開と WEB や電話による直販で企業の情報系サーバに狙いを絞った展開で好調を維持している。18.8%のシェアで NEC について 2 位だ。直販だけでなく、ユーザからの指名による、SI、販売店系での実質的なチャネル販売の実績も見逃せない。

上位 2 社の動きには今後も注目だ。総合力の NEC と勢いのあるデルは激しいシェア争いとなりつつある。別のユーザ調査の結果からも、両者の今後導入予定の比率が拮抗しているだけに今後さらに熾烈なシェア攻防が予想される。

次いで富士通が 16.6%で 3 位だ。富士通は上期終盤における自治体向けの受注活動が好調だった。下期になり相対的に伸びが緩んだ。ただし NEC 同様チャネルなどの総合力は強みだ。

HP はようやく合併後の組織改革や製品展開が明確な戦術となって表れてきており、大きく実績を回復している。特にデルとの一騎打ちの形での低価格戦でも健闘し、対前年比 37%アップの全メーカー中最高の伸びを見せた。シェア 15.8%と IBM を抑えて 4 番手となっている。



**[2004年度市場展望]**

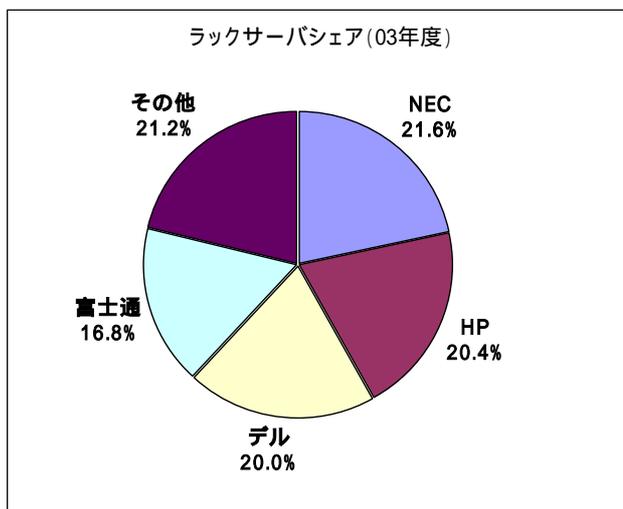
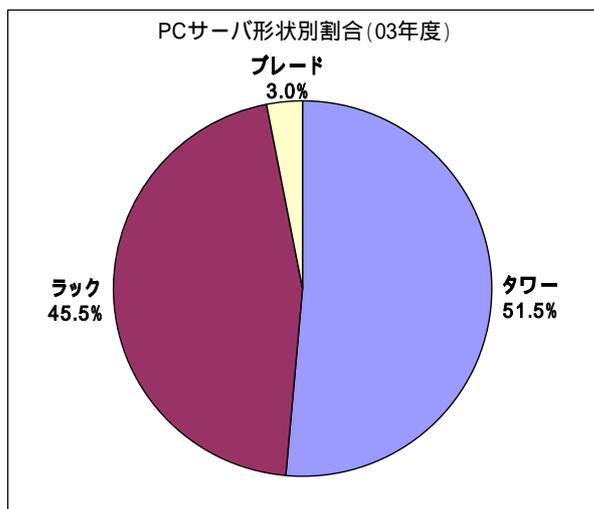
**- 対前年比 15%の伸び、424,000 台 -**

2004年度は景気の回復傾向がそのまま推移することが予想され、民需の低価格サーバを中心とする中堅・中小企業向けのソリューション、特にインフラ系の導入がまだまだ活発のため引き続き安定した需要が見込まれる。

ラック型サーバ(薄型サーバ)は好調に推移しており、企業規模に関係無く安定的に需要が拡大している。2003年度で全体の45.5%を占めた。2004年度にはタワー型を逆転することは間違いない。

ブレードサーバは大学、研究所を中心としたクラスター的な用途から一般企業へサーバ統合的な導入が見られ始めているが、2003年度ではまだ3%に過ぎない。市場の本格化は評価の定まる本年度後半以降と思われる。

景気の底打ち感による全般的な投資意欲が上昇している。さらにY2K導入サーバのリプレース、Windows server 2003の出荷、Linuxの浸透、IT投資減税の施行等が市場の追い風となって、増勢傾向は続き、前年度対比15%増の424,000台と予測される。



当調査データに関するお問い合わせ



ノーク・リサーチ  
担当：伊嶋 謙二 いしま  
e-mail: [pressr@norkresearch.co.jp](mailto:pressr@norkresearch.co.jp)  
〒124-0001 東京都葛飾区小菅 4-12-5  
電話 5629-2163 FAX 5629-2164  
URL: <http://www.norkresearch.co.jp>